

## 和歌山県庁文化国際課メールマガジン★NO.19★



「今年はあっという間だった！」と感じておられる方も多いのではないのでしょうか。年賀状の準備、大掃除など年内に終わらせたいことがあって、何かと気忙しい年末だと思います。今回も、ブルネイ、中国、インド、トルコとの交流、アジア・オセアニア高校生フォーラムの開催など様々な国との交流で話題が盛りだくさんです。中国派遣中の和歌山県職員による『異文化体験記』も見逃せません！今年のメルマガ最終号、2015年を振り返りながら読んでいただければ幸いです。

### ■ 文化国際課だよ！ ■

#### ブルネイに青少年交流団を派遣しました！

和歌山県とブルネイ・ダルサラーム国は、毎年相互の青少年交流を行っており、平成27年8月7日（金）～14日（金）の日程で、和歌山県内の高校生・大学生14人を派遣しました。この交流プログラムは平成21年度からスタートし、今回6回目の派遣でした。学生達は、現地の学校訪問やホームステイを通して、日本とは全く異なるイスラムの文化を体験しました。

#### -----参加者の二人の感想を紹介します-----

（智辯和歌山高校 神前 航輝）

ブルネイの街の風景にはイスラム圏ならではの宗教色が現れていました。モスクが数多く建ち、人々が礼拝をしていました。服装も特徴的でしたが、ヤヤサン高校の生徒と話してみると、みんな親しみやすく、

今はやりの音楽の話などをして楽しい時間を共有出来ました。

ホストは大家族で、4家族が協力し合って楽しそうに生活している姿は印象的でした。食事の制約や毎日のお祈りなど、イスラムの慣習に従った暮らしではありましたが、想像していた窮屈なものではなく、多くの日本人よりもおおらかに生活していました。庭のマンゴーをとって食べ、ココナッツの実を落としてミルクを飲んだりもしました。休日には熱帯雨林のジャングルにキャンプに出かけました。見たことのない熱帯の植物、聞いたことのない鳥の声…手つかずのカリマ

ンタン島の大自然は素晴らしかったです。ホストファミリーとゆったりと過ごした時間は忘れられない体験となりました。



(田辺高校 中露 稀理)

この研修は私にとって初海外経験でした。不安もありましたが、ブルネイがどのような所なのか早く確かめたくもありました。日本とは違い、ブルネイでは生活そのものが宗教と溶け合っていました。

夕食中によく、隣の部屋からお祈りが聞こえてきましたが、こういうのもイスラム圏ならではのようです。そして、マングローブ原生林をボートで見て回ったことはとても爽快でした。抜けるような青空の下生命力あふれる景観と風を感じるのには心洗われる体験でした。

お会いした方々は皆温かく心豊かで、穏やかで芯が強く知性的でした。空港での別れ際の風景は今でも思い出せるほど心に残っています。一生ものの経験を与えてくれたこの機会と、多くの方々に感謝したいです。それから、大人になったら、ぜひともブルネイを訪れようと思います。



皆さんも是非ブルネイという国に興味を持ってみてください♪

例年、派遣期間は8月です。関心のある方は県HPをチェックしてください。



**中国・山東省老年大学の皆さん来県！**



～山東老年大学 第二団～

中国山東省老年大学※1からは、6月の第一団に引き続き、11月に第二団を迎えました。

今回学生の皆さんが訪れたのは、御坊市です。



11月25日に、御坊市及び御坊市社会福祉協議会のご協力頂き、御坊市民文化会館で御坊市民大学「はまぼう学園」

はまぼう学園・大正琴クラブによる大正琴演奏

※2・山東老年大学友好交流会が行われました。

今回の交流会は、山東老年大学から25名の引率教員や学生、

「はまぼう学園」から100名以上の学生、また来賓や関係者なども含めて約150名の方々が参加し、大規模な催しとなりました。開会にあたり、柏木御坊市長や中村和歌山県議会議員、山東老年大学学生団の尹団長が、それぞれあいさつを行い、文化交流でははまぼう学園から大正琴、コーラス、伝統舞踊、ダンスなど、山東老年大学からはコーラス、扇子踊り、広場踊り、ファッションショーを交互に披露しました。その後、双方の学生が筆談や通訳を介して歓談し、和気あいあいの雰囲気の中で会場が盛り上がりました。

今回の交流会も両校の学生にとって互いに大変良い刺激になったようで、交流会の後、山東老年大学の学生は「日頃の練習成果を異国で披露することができて、とても嬉しかった。」と喜び、はまぼう学園の学生からも「このような交流は珍しいし、すごく楽しかった。」との声がありました。



山東老年大学学生によるファッションショー披露

この高齢者の交流は和歌山県と友好都市である中国山東省との友好交流の一環です。これをきっかけに両省県の高齢者や地域住民同士の絆が深まることを願っております。次回も楽しみにしています。



筆談によるコミュニケーション



通訳を介して歓談



記念撮影

(※1 山東老年大学とは1983年に中国国内で初めて設立された高齢者教育機関であり、現在は約19,000人の学生が登録しており、書道、中国画、スポーツ、文学、音楽、舞踊等60もの専門コースがある。)

(※2 御坊市民大学「はまぼう学園」は、御坊市社会福祉協議会により設置され、旧称は「御坊市老人大学」。大学は普通科、研究科大学院で構成し、一般教養や15のクラブ活動がある。)

## ●インド・ビームラーオ・アンベードカル博士の記念碑設置 ●

和歌山県は、インドのマハラシュトラ州と2013年に覚書を締結し、相互交流を開始しました。その交流のシンボルとして、今年9月にマハラシュトラ州の英雄であるビームラーオ・アンベードカル博士の記念碑が高野山大学に設置されました。

### ビームラーオ・アンベードカル博士（1891～1956）とは？

インドのカースト制における最下位層である「不可触民」として生まれたアンベードカル博士は、激しい差別を受けながらも勉学に励み、米国・英国への留学の機会を得る。ロンドンで弁護士の資格を取得すると、インドに戻って反カースト運動を推進。インド独立後には、初代法務大臣としてカースト制の廃止を謳った現インド憲法の起草に従事したことから、「インド憲法の父」と呼ばれている。晩年には、カースト制の根底にあるのはヒンドゥー教であると考え、約50万人の支持者とともにマハラシュトラ州ナグプールにて仏教へ集団改宗。インドにおける仏教復興運動の主導者としてのその功績は、今もなお称えられている。

9月10日に行われた記念式典・除幕式には、マハラシュトラ州ファドナヴィス首相をはじめとする州関係者や、世界各地から集まったアンベードカル博士を信奉するインド人など、多くの人々が参列しました。式典は、アンベードカル博士の生涯を表す舞踊劇などのインド伝統舞踊の披露から始まり、仁坂知事、ファドナヴィス首相などの代表者が挨拶を述べた際には、要所要所で歓声や拍手が沸き上がるなど、大変な盛り上がりを見せました。また、高野山大学とマハラシュトラ州立ババサヘブ・アンベードカル・マラサワダ大学が両校の交流に関する趣意書に調印しました。

マハラシュトラ州の風習に合わせて、仁坂県知事、藤田高野山大学長も頭にターバンを巻いています。



①インド伝統舞踊



②高野山大学とババサヘブ・アンベードカル・マラサワダ大学の趣意書調印



③除幕式

除幕式では、銅像が姿を現すとインド側参加者から歓声が上がリ、周囲は歓喜に沸く人であふれ返りました。インドならではの混沌と熱気、そしてアンベードカル博士がいかに慕われているかを垣間見ることができたひとときでした。

アンベードカル博士は日本ではあまり知られていませんが、インドではマハトマ・ガン

ジーと並ぶほどの偉人として崇められている人物です。高野山を訪れた際には、ぜひ高野山大学に立ち寄って松下講堂・黎明館前に立つアンバードカル博士の雄姿をご覧くださいればと思います。



## ●「アジア・オセアニア高校生フォーラム」開催●

11月4日から7日にかけて、第1回アジア・オセアニア高校生フォーラムが和歌山県で開催されました。県内高校生とアジア・オセアニアの国や地域の高校生が、共に世界共通の課題についての意見交換・プレゼンテーション・文化紹介等を通じ、自ら考え、発信・行動しグローバル社会で活躍できるリーダーを育成することを目的とし、企画されたものです。県内の11校、県外の5校、また海外21の国と地域が参加し、4日間に渡るプログラムで交流を深めました。

フォーラムのメインとなる研究課題は“津波対策をはじめとする防災対策”、“グローバル化と観光・文化交流”、“経済成長に伴う環境問題”の3つで、各参加者は分科会での発表・意見交換を行った後、全体会では議論しまとめた内容を発表しました。例えば、防災対策についての分科会では、県内の高校からは広川町の“いなむらの火”の逸話が披露され、高い関心を集めていました。また、日本同様トルコやニュージーランドなどの国においても、津波からの避難訓練が定期的に行われていることが分かったと、その方法や内容について、お互いに興味深く耳を傾けていました。最後には、国や地域単位ではなく、世界中で情報を共有し、災害に備えることの重要性が改めて確認されていました。県民文化会館の大ホールで開催された全体会では、約1200名の聴衆の前でのプレゼンテーションとなり、発表者は緊張しながらも、堂々と意見を述べていました。



◆県民文化会館での全体会

その他、歓迎レセプションや高野山での世界遺産研修ツアー、県内高校での交流プログラムなども行われました。プログラム全体を通じ、使用言語は英語だったため、緊張したり、うまくコミュニケーションが図れずもどかしかったりした様子もありましたが、たっ

た4日間という短い期間で、参加した高校生達は互いに友情を深めていました。

事務局として裏方を務めた文化国際課も、初めての開催ということで、海外21ヶ国とのやりとりなどの準備や約1200名が参加するイベントの進行に奔走しましたが、実際に高校生達が英語で堂々と発表をしたり、コミュニケーションを図って友情を深める様子を見て、自分達の高校生時代と比べてながら、凄いな、羨ましいなという気持ちになりました。

参加した高校生には、今回の経験を糧に、近い将来世界の舞台で活躍していただきたいと思います。



◆ネパールの民族舞踊披露



高野山での研修◆

## クイズ! 海外豆知識!

インドネシアを知ろう!

「アジア・オセアニア高校生フォーラム」の記事にもありましたが、今回のフォーラムにはカンボジア、ラオス、マレーシア、インドネシア、モンゴル、フィリピンなど20の異なる国々の高校生が参加しました。

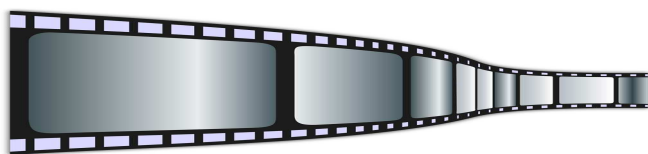
その中で今回は和歌山県と新たな絆を結びつつある、インドネシアについて注目したいと思います。

インドネシアは約300の民族がいる多民族国家で、世界第4位の人口（約2億3千万人）、世界最多の島嶼を抱える国です。また、イスラム教が国教でないにもかかわらず、最大のイスラム国であることでも知られています。



Q. アメリカは米、フランスは仏、メキシコは墨、など漢字一文字でインドネシアを示すと、その漢字はどれに当てはまるでしょうか。

A. 印 B. 尼 C. 馬 D. 土



### ■ お知らせ ■

# 海難1890

絶賛上映中!!

メルマガ16号で串本町での撮影の様子をお伝えした日本トルコ合作映画「海難1890」が遂に完成し、12月5日より全国の劇場で上映されています。この映画は、1890

0年に和歌山県串本町で起きた「エルトゥール号海難事故」、そこから95年後、イラン・イラク戦争の渦中に起きた「テヘラン邦人救出劇」、この2つの史実を基に、日本人とトルコ人の勇気と誠意を映し出しています。特に、日本トルコ友好関係の礎となった海難事故を通して、和歌山県民の「人を思いやる心」、そして美しい海岸など和歌山県の素晴らしい風景が随所で描かれています。

和歌山県にゆかりのある私たちにとって、郷土への愛着と誇りを再認識することのできる作品です。また、国際交流に興味を持たれている皆さんには、ぜひ見ていただきたい映画です。まだ見ていないという方は、家族や友達を誘って、ぜひ映画館へ足を運んで下さい。

海難1890公式サイト <http://www.kainan1890.jp/>



## ■ 和歌山県職員による「異文化体験記」 ■

皆さんこんにちは。私は文化国際課の宮本と申します。私は、今年の9月から中国の山東省に派遣されており、現在は山東省の省都・済南市にある山東師範大学で語学研修中です。毎日中国語に悪戦苦闘しつつ、中国での生活を楽しんでいます。

今日は皆さんに、私が感じた中国の様子をお伝えしたいと思います。

### 《済南の交通事情》

中国に来て、まず驚くのはやはり人の多さです。世界一の人口！というのが分かっているだけでも、やっぱり驚きます。

山東省は中国第2位の人口を抱えており、済南市だけでおよそ700万人もの人が暮らしています。朝夕の通勤時間帯は毎日大渋滞です。車も本当に多いのですが、単車や自転車もたくさん走っています。



中でも目を引くのが「電動自転車」です。これは日本でよく見る電動アシスト自転車とは違い、自分でペダルを漕がなくても走行でき、見た目も単車と自転車の間のような感じ。しかも結構スピードも出ます。車に比べて渋滞につかまりにくく、またバイクや単車と違って免許不要で手軽に乗れるので、中・短距離の通勤にはもってこいの乗り物なのでしょう。中国では、普通の自転車よりもこの電動自転車の方が多いのではないかと思います。

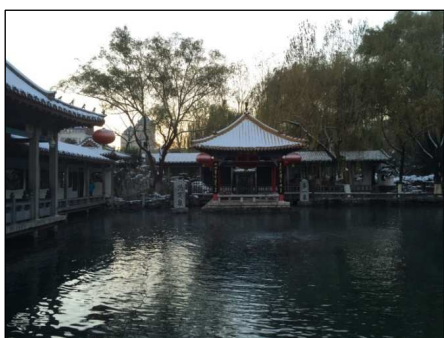
また近年、中国では渋滞対策のため、都市部での地下鉄整備が盛んに行われています。

しかし、ここ済南ではとある理由により地下鉄整備が進んでいません。済南の地下鉄整備を阻む要因、それは湧き水です。

済南は地下水が豊富で、泉が多く、「泉城」の別名があるくらいです。天下第一泉と呼ばれる趵突泉を筆頭に、「泉城」の名にふさわしい美しい泉がたくさんあります。

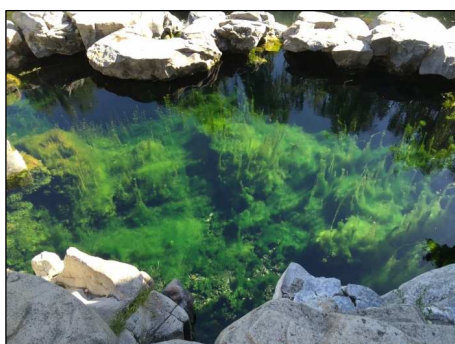
この豊富な地下水のため、地下鉄工事が非常に難しく、済南に地下鉄が走る日はまだまだ来そうにないということでした。

しかし「済南では地下の工事がとても難しいんですよ。「泉城」なので仕方ありません。」と言う時の済南人はどことなく誇らしげです。



#### ①趵突泉

天下第一泉とも呼ばれる済南で最も有名な泉。泉の周辺全体が公園として整備されています。



#### ②九女泉

済南市の中心・泉城広場からもほど近いところにある泉。水が本当に綺麗で、飲み水として汲んで帰る人も多くいます。

#### 《高校生の勉強時間》

中国の学生さんとお話ししていて一番驚いたことをご紹介します。

それは、高校生の学習時間です。以下は、私が聞いたある学生さんの高校時代のスケジュールです。

### 【ある中国の高校生の一日】

06:00	読書
07:30	朝食
08:00~08:45	1時限目
08:55~09:40	2時限目
09:40~09:45	体操
10:10~10:55	3時限目
11:05~11:50	4時限目
11:50	昼食
12:30~14:00	昼休み
14:20~15:05	5時限目
15:15~16:00	6時限目
16:00~16:05	体操
16:30~17:15	7時限目
17:25~18:10	8時限目
18:10	夕食
19:00~19:50	自習(一)
20:00~20:50	自習(二)
21:00~21:50	自習(三)

ちなみに朝の「読書」の時間というのは、自分の好きな本をそれぞれが教室で読む日本の「読書」の時間とは異なり、教科書を暗記するための時間だそうです。

いかがですか、この過密スケジュール！朝から晩まで本当にみっちりスケジュールが組まれています。聞けば、中国では高校生は学校の寮に住むのが一般的なのだそうです。寮生活だからこそこの時間割なのですね。

日本でも、受験する高校生は学習塾などに通って毎日長時間勉強しますが、学校の登下校や塾への往復にかかる時間などを考えると、中国の学生さんの方が学習時間がずっと長く、自由に使える時間が本当に少ないように思います。

私は、数人の学生さんに高校時代のスケジュールについて聞いてみましたが、読書の時間が朝食後だったり、授業時間が1コマ40分だったり、授業の終わりの時間が9時ごろだったり学校によって多少の差があるようでしたが、だいたい同じように高校時代は勉強！勉強！の日々を送っていたようです。

中国には、日本のセンター試験に当たる全国大学統一入試、通称「高考（ガオコウ）」があります。日本の大学受験のように大学ごとの二次試験などは無いため、合否はこの一発勝負の「高考」にかかっています。

2015年の高考受験者は中国教育省によると942万人以上だったそうです。ちなみに、

東京都の人口が約1315万人、二番目に人口の多い神奈川県が約904万人（どちらも2010年国勢調査）です。この桁外れの受験者数からも中国の受験戦争がいかに熾烈かがうかがえます。

高校時代の話をしてくれた学生の皆さんも「高校時代は勉強しかしてない」「本当につらかった」「あんまり思い出したくない…」等々おっしゃっていました。中国の一般の高校では部活動などもなく、本当に勉強一色のようです。

日本の受験もつらいと思っていましたが、中国の受験は日本以上に競争が激しくつらいものになっていますね。

そんな高校時代を送ってきたためか、大学生を見ていると、知識の習得やスキルアップに熱心に取り組む学生さんが多いように感じます。

日本はいよいよ受験本番の季節ですね。受験生の皆さんが、これまでの努力の成果を出しきれようお祈りしています。

私もここで、他の学生さん達に負けたくないよう励んでいきたいと思います！

2015年もメルマガご愛読ありがとうございました。今年も様々な和歌山県の国際交流をお伝えしてきました。来年も内容の充実を目標に交流員一同頑張っていきますので、どうぞ宜しくお願い致します。皆様、よいお年をお迎えください。



## クイズの回答

B. 尼 「印度尼西亜」（インドネシア）と表記されます。

ちなみに

A. 印「印度」（インド）、C. 馬「馬來西亜」（マレーシア）、D. 土「土耳其」\*（トルコ）

\*土留古、土耳其、都兒格などの表記もあります。



